

ばらんす

■ 編集発行 大田原市教育委員会生涯学習課女性企画担当 〒324 大田原市本町1丁目3-3 ☎0287-23-8718 ・ FAX 0287-24-2528

創刊にあたって



大田原市長
千保 一夫

このたび、おおたわら市女性行政広報紙「ばらんす」を発行するはこびとなりました。本市では、「男女共生社会の人づくりと住みよいまちづくりをめざして」を指針として、平成八年六月「おおたわら女性プラン」を策定いたしました。今日の複雑な社会環境にかかわる女性問題は、広範囲にわたっており、女性だけではなく、男性も共に考えていかなければならない問題でもあります。

また、高齢社会や少子化問題、さらには健全な青少年の育成など、これらの問題はいずれも今後の男女の生き方と深い関わりを持つことが多いのではないかと思います。家庭や職場、社会などあらゆる分野に男女が手を携えて、お互いの立場を認め合いながら、男女の性差にかかわらず豊かな人生を生きることが

発刊に寄せて



大田原市女性問題懇話会会長
君島 サキ子

光り輝く時、安らぎのある明るい社会になるものと確信いたしております。男女平等の意識づくりは、何と言いましても市民の皆さん一人一人の理解と協力なしには実現することはできません。どうかこの女性行政広報紙がこのような役割を担ってくれることを心から期待して創刊のあいさついたします。

このたび、女性行政広報紙が創刊されますことを心からお祝い申し上げます。男女共生社会の人づくりと住みよいまちづくりをめざし「おおたわら女性プラン」を策定するにあたり、女性問題懇話会では、ジェンダーの視点にたった広報紙の発行を強く要望しております。

国際婦人年をひとつの契機として、女性問題解決に向けて法律や制度の整備が進み、男

女平等は進展しつつありますが、依然として固定的な性別役割分担意識は社会のあらゆる場面に根強く残り、私達の生き方に少なからず制約をもたらしていると考えられます。男女の本質的な平等にたち、個性を尊重し合い、能力や適正を充分に発揮できる真の平等社会の構築が今求められています。

戦後女性のあゆみ (1)

総理府編「女性の現状と施策」(平成七年版)を資料に編集いたしました。

- 昭和二十年(一九四五) 婦人参政権実現
- 昭和二十一年(一九四六) 日本国憲法公布、男女平等明文化
- 昭和二十二年(一九四七) 労働省婦人少年局設置
- 昭和二十三年(一九四八) 主婦連合会結成
- 昭和二十四年(一九四九) 第一回婦人週間(「もっと高めましよう、わたしたちの力を・地位を・自覚を」)
- 昭和二十八年(一九五三) 第一回婦人会議(労働省)
- 第一回日本婦人大会(婦人団体連合会)
- 昭和二十九年(一九五四) 第一回婦人月間
- 昭和三十五年(一九六〇) 中山マサ、初の女性大臣
- 昭和三十九年(一九六四) 母子福祉法発布・施行
- 昭和四十年(一九六五) 母子保健法公布

稿 橋木県女性の
海外研修に参加して

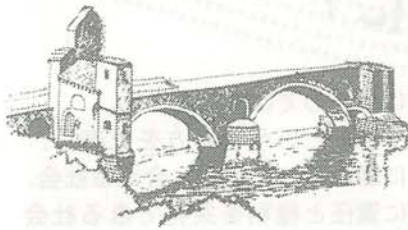
フランス、デンマークを旅して

大田原市 末広

安藤 勢津子

アビニヨンの十月は木々が染まり始め、温暖な中で人々は心に潤いのある毎日を送っています。

フランス、デンマークでは、事前研修をした教育、女性の自立、福祉を現地研修できました。デンマークは世界に先がけた高福祉国、人々の人権に基づく平等な意識はすべての社会生活に根ざしています。フランスは個人の権利を確立する意識が高い国です。両国共に精神は次代に引きつがれています。又働く素晴らしい女性として、人として生きるより良い社会を目指して活動する姿に感銘を覚えました。



研修に参加し、多くの学習と体験ができましたことを、お世話になりました方々に感謝致します。



男女共同参画社会って どんな社会?

男女共同参画社会とは、男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保される社会をいいます。この社会においては、職場、家庭、学校、地域等いかなる場であっても、男女が人として尊重され、自らの選択の下に、共に能力を発揮し、共に貢献し、共に責任を負い、お互いが支え合える、いわば女性と男性のイコール・パートナーシップで築き上げるバランスのとれた社会像です。

市議会女性議員と女性団体との懇談会開催!!

去る八月二十二日 市女性団体連絡協議会加入十二団体の役員と市議会議員永塚和子議員、本沢節子議員との懇談会が開催されました。

テーマは特に定めずフリートークングで行い、お二人から女性の地位の向上を図る上で、女性議員としての立場で体験、経験をお聞きした後、日頃疑問に思っていることなど、質問を交えながら盛況の内に終了しました。



ひとくち・インフォメーションボード

父と子のふれあい教室

講師 アサヒクッキングスクール校長 吉野 昭子他

日 時	内 容
12月1日(日) 10:00~16:00	・手作りピザとデザート ・パソコンに触れる

対 象 父と子(小学生以上)
募集人数 10組(20名)
申込期間 11月1日から11月24日まで
受 講 料 1組1,500円(材料費1組500円)

とちぎ女性センター「パルティ」では、後期講座が次により開催されます。詳細は下記へお問い合わせください。

生活充実講座～自分史入門～

講師 第1~3回 作家 松本 富生
第4回 グループ「おもいり」代表 佐原 昭子
対 象 女性・男性 募集人員 20名
申込期間 12月3日から12月17日まで
受 講 料 2,000円

日 時	内 容
1 1月16日(木) 10:00~12:00	自分史とは
2 1月22日(木) 10:00~12:00	自分を知る 文章表現のしかた
3 1月29日(木) 10:00~12:00	自分史を書く
4 2月19日(木) 10:00~15:00	自分史文集を作る ～編集から装丁まで～

■ 申込先 〒320 宇都宮市野沢町4-1 パルティとちぎ女性センター
TEL 028-665-7700 FAX 028-665-7722

編集後記

市民の皆さん、今日は。おたわら市女性行政広報紙「ばらんす」をお届けいたします。

男性、女性また子供から高齢者、すべて人間としての重みはみな同じです。

また、すべての男女一人ひとりが、より自分らしく生きられる社会を創りあげていきたいと願っています。

とくに、人間社会では人間関係や仕事との「バランス」は大切なことです。

この「バランス」のとれた社会を目指し、これからの「素敵に、輝かしく生きたい」ということを願い「ばらんす」と名付けました。

今後さらに、工夫改善をし、皆様に親しまれる広報紙づくりをしていきたいと思っておりますので、ご意見、ご要望をお寄せください。



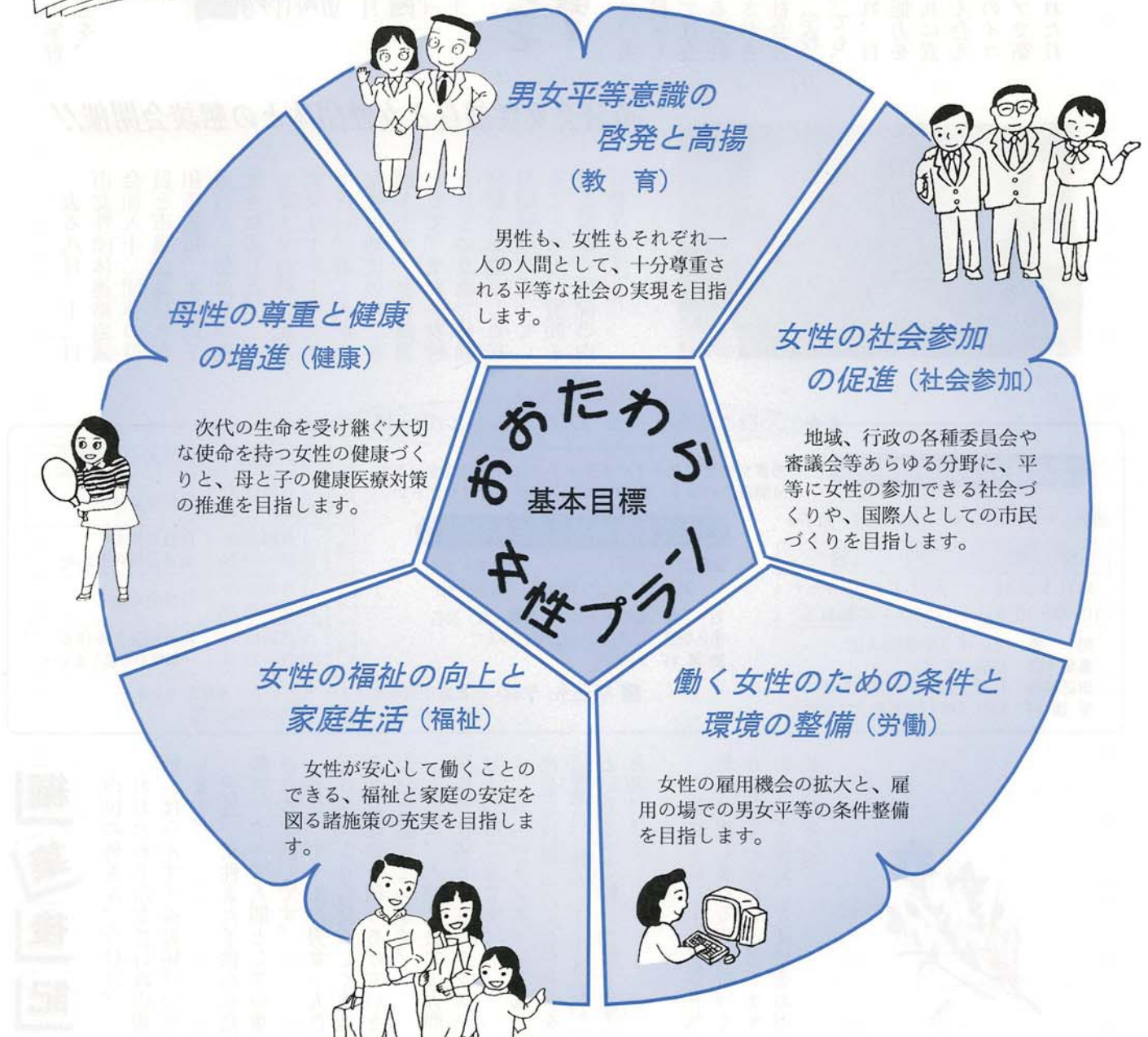
女性プランってなあ~に？



女性プランといっても、女性だけのものではありません。「女だから、男だからこうあるべき」という考え方を見直し、一人一人の生き方や個性をお互いに認め合い、生かし合える社会、それはあらゆる場面で男女が平等に責任と権利を共有できる社会であり「男女共同参画社会」と言われます。女性自身の意識を変え、男性の考え方を見直し、男女が共に手を携えて生きていく共通の条件を整えることです。

「おたわら女性プラン」は、こうした女性問題の解決のため、平成17年度を目標年次として、「男女共生社会の人づくりと住みよいまちづくりをめざして」を指針として策定いたしました。

市民の皆さんの協力を得ながら目標達成に向け、さまざまな施策を推進してまいります。



男女共生社会をめざす「おおたわら女性プラン」体系

「男女共生社会の人づくりと住みよいまちづくりをめざして」を指針として、5項目の「基本目標」と「基本方針」18項目を策定いたしました。また、体系には記載しておりませんが、更に基本方針に対する「施策の方向」として44項目を策定しております。

